

□ 合 唱

保 延 裕 史

1. 2017年はクラウディオ・モンテヴェルディ (1567~1643) の生誕450年に当たり、その作品が国内外の演奏団体によって広汎に取り上げられた。まず大作「聖母マリアの夕べの祈り」はR・アレクサンドリーニ指揮コンチェルト・イタリアーノ (7月)、鈴木雅明指揮バッハ・コレギウム・ジャパン+コンチェルト・バラティーノ (9月)、当間修一指揮大阪コレギウム・ムジクム (12月)、ラ・フォンテヴェルデ+アントネッロ (9月) によって演奏された。ラ・フォンテヴェルデは、ほかにアンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニを伴い「論理的・宗教的な森」(12月)、さらに全曲演奏継続中のマドリガーレ集の演奏会を定期として2回行った。古楽アンサンブル・コントラポントによる「ミサイ・イン・イレ・テンポレ」ほか (3月)、ラ・ヴォーチェ・オルフィカによる「聖母の涙」ほか (3月) の公演があった。いずれも演奏への反響は大きく、このルネッサンスから初期バロックにかけて時代を切り開いた巨匠作曲家の魅力が世に浸透し、同時に日本の古楽演奏の水準の高さが証明された意義は大きかった。
2. 次に2017年の合唱界で注目された公演を列挙する。ルネッサンス教会音楽ではタリス・スコラーズが創設者P・フィリップスの指揮でモンテヴェルディ「無伴奏による4声のミサ」、パレストリーナ「教皇マルチェルス6世のミサ」、アレグリ「ミゼレーレ」などに加え、現代作曲家マーラー (1981~) の「哀歌」とタリス「エレミアの哀歌」を対比した意欲的なプログラムを披露した (6月)。合唱王国として知られるラトビアからラトビア放送合唱団が来日し、K・プトニシユの指揮でラフマニノフ「徹夜禱」など無伴奏合唱の粋を聴かせた。同合唱団は札幌定期 (H・ホリガー指揮) にシューマン「ミサ・サクラ」で出演した (5月)。また、P・ダイクストラ率いるスウェーデン放送合唱団はサンドストレム、ベルト、ペンデレッキなどの作品のほか都響定期 (大野和士指揮) でハイドンのオラトリオ「天地創造」に共演した (10月)。日本の合唱団では、昨年創立20年を迎え、その活動が高く評価されたヴォクスマーナ (西川竜太指揮) の若手作曲家への委嘱新作による定期を3回行った (1, 3, 7月)。創立60年記念シリーズを終えた東京混声合唱団は、田中信昭、山田和樹、松原千振、大谷研二に若手の伊藤翔、水戸博之が加わった指揮者陣による委嘱新作初演を含む多彩なプログラムなど積極的な活動 (定期4回、特別定期、いずみホール定期および地方公演) は、本邦随一のプロ合唱団と呼ぶに相応しいものであった。バッハ・コレギウム・ジャパンは「ルター500プロジェクト」として鈴木雅明指揮で「バッハ協会カンタータシリーズ」、また、聖金曜日のバッハ「マタイ受難曲」演奏のほか、前述モンテヴェルディ (9月) とベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」(2月) などの活動を見せた。オーケストラとの共演による合唱演奏では、都響定期 (H・リントウ指揮) のシベリウス初期の出世作「クレルヴォ交響曲」にフィンランド・ポリテク男声合唱団が出演した。創立60年記念京響定期 (3月) で京響コーラス、

京都府合唱連盟ほかがマーラー「千人の交響曲」を演奏した。興味深いのはハイドンの「天地創造」の演奏が重複したことで、前記都響 (9月) に加え、新日本フィル (コーロ・リベラ・クラシコ・アウメンタート、鈴木秀美指揮、6月)、東京シティ・フィル (東京シティフィルコア、高関健指揮、9月) の演奏があった。総じて、プロオーケストラの名を冠した団体や合唱団の集合体のアマチュア・コーラスの存在が定着する一方、東京オペラシンガーズ、新国立劇場合唱団が安定した立派な合唱を聴かせた。

3. フェスティバル関係では、Tokyo Cantat2017 (4~5月) は、招聘したE・オルトナー、F・ベルニウス、K・プトニシユの指導によって公募合唱団や参加合唱団が演奏するクロージング・コンサート、テーマ「やまとうたの血脈Ⅶ」によって選曲されたコンサート、それに「紅白合唱戦」と各地でセミナーが行われ、大きな成果を収めた。第38回草津国際音楽アカデミー&フェスティバルでは、M・ハイドン「レクイエム (未完)」の日本初演とモーツァルト「レクイエム」(ロビンス・ランドン版) が同フェスティバル合唱団とオーケストラ、矢崎彦太郎指揮で演奏された。
4. 上記以外の注目公演を月毎に挙げておく。1月: ヴォーカルアンサンブル・カペラシリーズ定期のイザーク「ミサ曲」2月: 名古屋フィル定期 (プロコフィエフ「アレクサンドル・ネフスキー」グリーン・エコー、川瀬賢太郎指揮) 3月: 東京ニューシティ管、東京合唱協会定期 (モーツァルト「レクイエム」、内藤彰指揮)、東京少年少女合唱隊定期 (長谷川冴子、長谷川久恵指揮) 4月: 東京・春・音楽祭合唱の芸術シリーズ (シュベルト「ミサ曲第6番」東京オペラシンガーズ、都響、U・シルマ指揮)、東響定期 (グバイドゥリーナ「アッシジの聖フランチェスコによる太陽の讃歌・日本初演」、東響コーラス他、池尻竜典指揮)、ウィーン少年合唱団、大阪フィル定期 (オルフ「カルミナ・ブラーナ」大阪フィル合唱団他、大植英次指揮)、関西フィル定期 (ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」関西フィル合唱団他、飯守泰次郎指揮) 6月: 山田和樹マーラー・ツィクルス (「千人の交響曲」、栗友会合唱団他、日本フィル、山田和樹指揮)、ザ・タロー・シンガーズ定期 (里井宏次指揮) 7月: 大阪国際フェスティバル・バーンスタイン・シアターピース「ミサ」(大阪フィル、大阪フィル合唱団他、井上道義指揮) 8月: ドラケンスバーク少年合唱団、9月: サントリーホールR E オープニングコンサート (ロッシェニ「ミサ・ソレムニス」、サントリーホール・オペラアカデミー他、東響、G・サッパティーニ指揮)、びわ湖ホール声楽アンサンブル定期 (「すてきな日本の合唱曲選」、田中信昭指揮)、日本センチュリー響定期 (カンチャリ「ステュクス」、バッハ・アカデミー合唱団、飯森範親指揮)、神戸市混声合唱団秋の定期 (松原千振指揮) 10月: 大阪フィル定期 (ドヴォルザーク「テ・デウム」、大阪フィル合唱団他、R・エリシュカ指揮) 11月: ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管 (ブラームス「ドイツ・レクイエム」、ウィーン楽友協会合唱団他、H・プロムシュテット指揮)、モーツァルティアン・コーラス・ジャパン (モーツァルト「レクイエム」、東京ヴェリタス響、福島章恭指揮)、N響定期 (プロコフィエフ=スタセヴィチ編「イワン雷帝」、東京混声合唱団他、T・ソビエフ指揮) 12月: 札幌定期 (バッハ「クリスマス・オラトリオ」、札幌合唱団他、M・ボンマー指揮)。